

いわき農林水産ニュース

ふくしまからはじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動ニュース



10月号 発行 平成28年10月27日

「とうほう・みんなの森づくり」ボランティア活動が開催されました



(参加者全員で記念撮影)

10月1日(土)、いわき市常磐湯本町のときわ台生活環境保全林内において、畠副知事出席のもと「とうほう・みんなの森づくり」植林活動が開催されました。

「とうほう・みんなの森づくり」(植林活動)は、(株)東邦銀行が企業の環境保全活動の一環として平成21年から県内で活動を展開しているもので、いわき市内においては平成27年に県及びいわき市と三者協定を締結し、森林の再生を目的とした植林活動を実施しています。

当日は、約350名の行員とその家族が参加し、ヤマザクラやコナラ、シバグリの苗木を丁寧に植えていました。また、平成30年に本県で開催される全国植樹祭への植樹のバトンリレーも行われ、全国植樹祭開催への機運を高めていました。

今回でいわき市内での活動は終了しますが、来年度以降も引き続き県内で植林活動を行っていくこととしております。(森林林業部)

秋冬ねぎ現地栽培指導会が開催されました



「大浦支部(下仁井田)での指導会開催の様子」

指導会では、いわき農林事務所から気象経過や病虫害対策を重点的に説明した後、タキイ種苗(株)から今後の栽培管理等について説明がありました。

生産者からは、出荷まで2か月となっていることから、軟腐病や萎凋病の対策など様々な質問が出されました。

生産者は台風や長雨で管理に苦労されていますが、品質の良いねぎを生産しようとする意欲が感じられ、今年も良質ないわき産ねぎの出荷が期待されます。(農業振興普及部)

JA福島さくら いわきいちじく部会出荷目揃会が開催されました

9月16日（金）、JA福島さくら第一営農センターにおいて、いちじくの出荷目揃会が開催され、生産者18名が出席しました。

いわきでは「柘井ドーフィン」という生食用品種が5ha栽培されています。いちじくを生で食べる習慣は、温暖ないわき地方に昔から伝わるものです。

今年は夏期に高温だったため平年より7～10日程度生育が早まり、9月初旬からの収穫となりました。

目揃会ではJA担当者から、大きさや着色基準、キズなどの規格選別の説明がありました。いわき農林事務所からは、今年の天候と生育の関係を説明するとともに、果実が柔らかいので取扱に注意するよう呼びかけました。

参加者からは、高温・干ばつや豪雨といった異常気象が当たり前になっているため、安定して生産できる技術を確認して欲しいとの意見がありました。

いちじくの出荷期は、早霜が降りる11月初旬まで長期間にわたります。果実は地面に近い下段から上に向かって一つずつ熟すことから、毎日収穫が行われます。（農業振興普及部）



（収穫期を迎えたいちじく）



（真剣に出荷規格を確認する生産者）

「サンシャインいわき盛りだくさんフェスタ2016 in道の駅あいづ 湯川・会津坂下」を開催しました



（タッチプールのブース）

9月18日（日）、国道49号線や磐越自動車道等といった、交通上密接な関係のあるいわきと会津のさらなるつながりの強化及びより一層の観光交流促進、そして風評の払拭を図るため、いわき市や県関係機関（水産事務所、水産試験場、県中・会津地方振興局）等と連携し、「サンシャインいわき盛りだくさんフェスタ2016 in道の駅あいづ 湯川・会津坂下」を開催しました。



(フラダンスショーの様子)

当日は、県漁業協同組合連合会女性部によるヒラメの唐揚げの試食提供のほか、目光の唐揚げや干物、かまぼこ、イチジク等のいわきの農林水産物を中心としたブースや、水産試験場による海の生き物と触れ合える「タッチプール」のブースが設けられました。

また、ステージでは平商業高校の生徒によるフラダンスショーとじゃんがら念仏踊り、ご当地キャラ・ヒーローによるステージショーも行われました。

あいにくの雨模様でしたが、家族連れで来場される方も多く、効果的にいわき市の魅力をPRすることができました。

(いわき地方振興局)

福島第一原子力発電所半径20km海域の ガレキ撤去事業が開始されました

9月27日(火)、東京電力ホールディング(株)福島第一原子力発電所(以下「福一」という。)半径20km海域の漁場生産力回復のため、震災ガレキの撤去作業が開始されました。

本事業は水産庁の漁場復旧対策支援事業によるもので、来年の2月までに作業を終える予定です。

いわき市漁協では、震災前に福一半径20km海域を漁場としていた久之浜、四倉、沼之内支所の漁船34隻、漁業者121名がガレキ撤去作業に従事しました。底びき網漁船とその他の漁船で海域を分担して撤去作業を実施しました。10月14日(金)までに6日間実施し、網やロープ、カゴなどの漁具を始め、流木、布団や自転車等のガレキを約10トン回収しました。陸揚げされたガレキは放射線量を測定した上で、各漁港の仮置き場に一時保管された後、産廃処理業者により処分されます。

現在、福一半径20km海域は、海中ガレキの存在により、操業が自粛されていますので、ガレキ撤去作業の完了により、操業自粛海域の縮小に関する議論が進み、操業海域拡大に繋がるものと期待されます。

(水産事務所)



(ガレキ陸揚げ)



(仮置き場のガレキ)

サンマが初水揚げされました



(サンマ水揚げの様子)

9月21日(水)、小名浜魚市場において、県内では今年初めてとなるサンマの水揚げがありました。水揚げ量は約100トンで、入札の結果190円～300円/kgの価格で取引されました。

漁船の乗組員によれば、サイズは例年並みで、脂の乗りはよいとのことでした。国の研究機関の予報では、今年のサンマ漁は不漁だった昨年を下回る見込みとされていますが、漁模様が回復して多くの方が美味しいサンマを食べられるようになることを期待しています。(水産事務所)

草野小「田んぼの学校」が開催されました

10月5日(水)、ふくしまの農育推進事業「田んぼの学校」が開催され、いわき市立草野小学校と福島県立聾学校平分校の5年生児童約80名が稲刈りに挑戦しました。

草野小学校で26年間にわたり、農業体験学習に取り組んでいる富岡正治(とみおかまさはる)さんと地元農家さんによる指導、また、保護者の方々の協力もいただきながら、児童たちは元気いっぱい稲刈りに励みました。

開会式では富岡さんより「5月にみんなで植えた苗は、台風の影響とスズメの食害を受けて、稲にはとても厳しい環境ではありましたが、雨風にも負けず大きく成長してくれました」と講評がありました。

いざ収穫作業に入ると、児童たちが一生懸命に作業したため、30分程度であっという間に刈り取りが終了しました。児童たちが刈り取った稲は、地元農家や保護者の方々により藁で結束されたあと、田んぼの中に立てた稲を乾かす役目の「はせがけ」で2週間ほど天日干しをします。

今回収穫した米(ときめきもち)は、11月12日(土)に開催するこどもの秋祭り(収穫祭)で、地元の方々と交えて餅つきをして食べる予定です。(農村整備部)



(富岡さんから稲刈りの説明)



(カマの使い方が難しい!)

その他

高病原性鳥インフルエンザいわき地方対策本部 職員説明会を開催しました



(説明会の様子)

9月29日(木)、30日(金)、いわき農林事務所職員を対象とした説明会を開催しました。

これは、管内の家きん農場で高病原性鳥インフルエンザが発生した場合、家畜伝染病予防法に基づき迅速な防疫措置をとる必要があることから、地方対策本部を構成するいわき農林事務所職員の理解を深めるために実施したものです。

はじめに、いわき家畜保健衛生所職員が高病原性鳥インフルエンザの概要と初動防疫の対応について説明し、その後、事務局より各業務分担や現場

での作業内容について説明を行いました。

今後は、職員及び関係機関・団体等の協力を得ながら防疫演習を実施し、緊急時に万全な防疫措置が講じられるよう防疫体制のさらなる整備を図っていきます。(農業振興普及部)

お知らせ

いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果について

□農林畜産物の検査結果

福島県が行った、いわき地方の9月の農林畜産物の放射性物質モニタリング検査結果(表1)をお知らせします。

検査した10品目44検体のうち、9品目29検体において、放射性セシウムが検査機器の検出限界値以下でした。内訳は(表2)のとおりです。

なお、クリについては、15検体のうち6検体に100Bq/kg以下の放射性セシウムが検出されました。内訳は(表3)のとおりです

9月末現在、いわき地方産の農林畜産物で出荷が制限されているのは、(表4)のとおりです。

(企画部)

(表1) 農林畜産物の検査結果(9月末現在)

1点も検出されなかった品目と検体数	検体の一部が検出された品目と検体数			計
9品目	1品目(クリ)			10品目
	検出限界値以下の検体	基準値内で検出された検体	基準値超で検出された検体	
29検体	9検体	6検体	0検体	44検体

(表2) 1点も放射性セシウムが検出されなかった品目と検体数

ブドウ(施設) 3、イチジク2、菌床しいたけ(施設) 5、菌床なめこ(施設) 2、 原木しいたけ(施設) 4、小豆1、カキ3、牛肉5、原乳4

(表3) 基準値内で検出された品目と検体数

品目数	検体数	内 訳	
		100Bq/kg以下	検出限界値以下
クリ	15	6 (2.1~44Bq/kg)	9

(表4) 出荷制限および出荷自粛品目(9月末現在)

制限、自粛	区分	品目
出荷制限	野菜・根菜・芋類	—
	果物	—
	穀類	—
	山菜	たけのこ、ぜんまい、たらのめ(野生のものに限る)、わらび、こしあぶら
	きのこ	原木なめこ(露地)、野生きのこ
	畜産物	—
出荷自粛	山菜	さんしょう(野生のものに限る)

□平成28年産米の全量全袋検査結果

平成28年産米の全量全袋検査は、9月までの検査点数42,889点のうち、99.99%の42,885点が測定機器の測定下限値未満、4点が基準値内で検出が確認されましたが、基準値を超過したものはありませんでした。

(表) 玄米(平成28年産)検査状況(9月末現在)

測定値区分 (単位: Bq/kg)	測定下限値 未満(<25)	25 ~ 50	51 ~ 75	76 ~ 100	100 以上	計
検査点数 (点)	42,885	4	0	0	0	42,889
割合 (%)	99.99	0.01	0.00	0.00	0.00	100.00

(9月30日付け 「ふくしまの恵み安全対策協議会」HPにより確認)

調査結果は、「ふくしまの恵み安全対策協議会」放射性物質検査情報で簡単に検索できますので、結果をご確認ください。(企画部)

□海産魚介類の検査結果

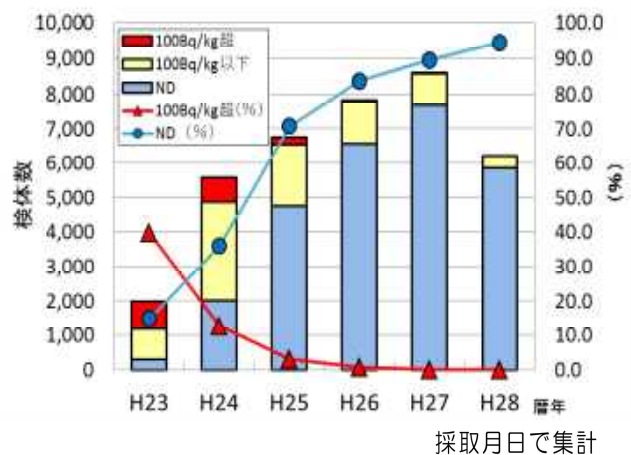
福島県沖で採取された海産魚介類の放射性セシウム濃度は、時間の経過とともに着実に低下しています。

平成28年9月に695検体を検査し、放射性セシウムとしての基準値100Bq/kgを超えたものはありません。海産魚介類では平成27年4月以降、基準値を超えたものはありません。平成27年7月以降、モニタリング検査で放射性セシウムの不検出割合が9割を超え、平成28年1月から9月末では不検出割合が94.5%となっています。(水産事務所)

(表・グラフ) 平成23年以降のモニタリング検体数と放射性セシウム検出の割合

年		100Bq/kg 超	100Bq/kg 以下	不検出	計
H23	検体数	785	893	294	1,972
	割合(%)	39.8	45.3	14.9	100.0
H24	検体数	921	2,372	2,287	5,580
	割合(%)	16.5	42.5	41.0	100.0
H25	検体数	280	2,147	5,214	7,641
	割合(%)	3.7	28.1	68.2	100.0
H26	検体数	75	1,987	7,260	8,722
	割合(%)	0.9	15.9	83.2	100.0
H27	検体数	4	896	7,677	8,577
	割合(%)	0.05	10.4	89.5	100.0
H28	検体数	0	344	5,869	6,213
	割合(%)	0.00	5.5	94.5	100.0

H28.9.30現在



採取月日で集計

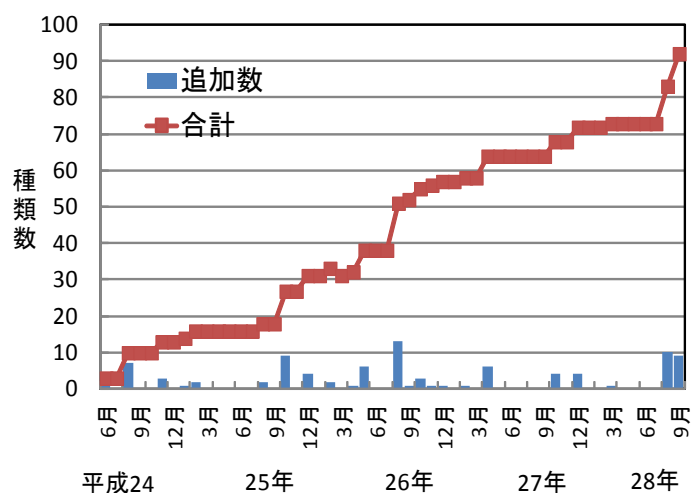
□試験操業の状況

試験対象種は、9月29日(木)の組合長会議で新たにアイナメ・アカシタビラメ・エゾイソアイナメ・コモンカスベ・マコガレイ・クロマグロ・カツオ・シイラ・ヒラマサの9種の追加が承認され、全92種類となりました。

また、同会議では、いわき地区の釣り試験操業計画と相双地区のはもかご・どう試験操業計画が併せて承認され、漁業種類は全11種類となりました。

(9月末現在 出荷制限魚：16種)

(グラフ) 試験操業の対象種の推移



(水産事務所)

「ふくしま地域産業6次化新商品カタログ」に
掲載された6次化商品をご紹介します



【お問い合わせ】
(株)いわき遠野らぱん
●いわき市遠野町上遠野字若宮60-1 ●TEL.0246-89-3125
●WEB:<http://www.iwakitohno-lapin.co.jp/>

今回は“ふくしま地域産業6次化新商品カタログ”（平成28年3月版）に掲載されている商品の中から（株）いわき遠野らぱんの「青取り完熟トマトジュース」をご紹介します。

「青取り完熟トマトジュース」は、南会津産トマトを100%使用した酸味と甘さの絶妙なバランスを保つトマトジュースです。

トマトはヘタから先端へオレンジの筋がつながった完熟サインが現れた時から、わずか三日間が最高に美味しい時です。その瞬間を畑で見極め収穫し、工場に直送、手作りで製造するオンリーワンの商品です。

元々農業法人であった（株）いわき遠野らぱんは、生鮮野菜の生産を行っていましたが、農業所得の向上と安定経営を図るため加工品の製造事業に取り組みました。

その中で、復興支援事業を通じて南会津町の生産農家と知り合い、南会津産トマトを使用したジュースを開発されたそうです。

「青取り完熟トマトジュース」は、11月中旬から販売予定で（株）いわき遠野らぱん本店のほか、いわき駅内のVege Caféやインターネットでもお買い求めいただけます。是非ご賞味下さい。

福島県いわき農林事務所（平成28年度キャッチフレーズ）



◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。
福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
（県いわき合同庁舎 3階）
T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196
U R L <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース